

シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修課程全体の構成と各科目相互関連性像をあらかじめイメージできるようにさせる。</li> <li>・介護職が働く現場や仕事の内容を理解させる。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 介護保険サービス 2. 介護保険外サービス 3. その他のサービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 介護職の仕事内容 (居宅、施設) 2. 実際のサービス提供現場 (居宅、施設) 3. サービス提供の実際 (居宅、施設)
(合計時間数)	6.0	6.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事例を通して、利用者とその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。</li> <li>・具体的な事例をとおして、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアの理解を促す。</li> <li>・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。</li> <li>・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待への理解を促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 人権と尊厳の保持 ・介護の対象となる人を理解した上で、その個人として尊厳ある暮らし方について学ぶ。 2. 介護分野における I C F 3. Q O L の考え方、生活の質 4. ノーマライゼーションの考え方 5. 虐待防止・身体拘束禁止 ・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援 6. 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業
② 自立支援に向けた介護	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 自立支援 2. 介護予防 ・介護予防の考え方
③ 人権啓発に係る基礎知識	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 人権とは何か ・基本的人権の考え方、社会的弱者といわれる人たちに対する人権について歴史的な流れを含めた考察 ・成年後見制度、権利擁護
(合計時間数)	9.0	9.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。

- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</li> <li>・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性 2. 介護の専門性 ・重度化防止、遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助・根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム・多職種から成るチーム 3. 介護に関わる職種 ・異なる専門性を持つ多職種の理解(介護保険に関わる職種、医療の専門職、その他の専門職)
② 介護職の職業倫理	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 職業倫理 ・専門職の倫理の意義、介護職の職業倫理
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 介護現場における安全の確保 2. 事故予防、安全対策 3. 感染対策
④ 介護職の安全	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 介護職の心身の健康管理 2. 介護職に起こりやすい健康障害とその予防
(合計時間数)	6.0	6.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</li> <li>・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴共感の応答 2. コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの特徴 3. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 4. 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障害、言語障害や認知症のある人とのコミュニケーション技法
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義や目的 2. 報告 ・報告の種類と留意点、連絡の留意点、相談の留意点 3. コミュニケーションを促す環境 ・情報の共有化、ケアカンファレンス、会議
(合計時間数)	6.0	6.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療連携			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度、障がい者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。</li> <li>・利用者の生活を中心に考えるという視点共有し、その生活を支援するため介護保険制度、障がい者総合支援制度、その他サービス位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
① 介護保険制度	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 2. しくみの基礎的理解 3. 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
② 医療との連携とリハビリテーション	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 医行為と非医療行為の範囲 2. 医療・看護との連携の必要性 3. リハビリテーション
③ 障害者総合支援制度およびその他制度	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 障害者福祉制度の理念 ・障害者福祉制度の流れと障害者福祉サービスの再編 2. 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・自立支援給付、訓練等給付の申請から支給決定まで 3. 個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業、社会福祉法による権利擁護
(合計時間数)	9.0	9.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 221  
商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。</li> <li>・複数の具体的なケースを示し、認知症利用者介護における原則について理解促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等(別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 認知症の現状と施策 ・認知症施策と介護サービス 2. 認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 認知症の概念 ・認知症の定義・症状 2. 認知症の原因疾患とその病態と健康管理 ・血管性認知症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭葉側頭葉変性症、若年認知症
③ 認知症に伴うこころとかからだの変化と日常生活	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の人のBPSD 2. 認知症の利用者への対応 ・疾患別対応方法
④ 家族への支援	1.5	1.5	0	<講義内容> 1. 認知症と家族の心理 ・家族介護の受容過程とその過程での支援のあり方 2. 家族介護への支援 ・家族のストレスケア
(合計時間数)	6.0	6.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけること必要性へ気づき促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 2. 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について
② 高齢者と健康	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 高齢者の疾病と生活上の留意点 (骨折・筋力の低下と動き、姿勢の変化・関節痛) 2. 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障害、神経・精神疾患、感染症、内分泌・代謝系疾患、感覚器障害、運動器(筋骨格)系疾患、老年症候群
(合計時間数)	6.0	6.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載する。

## シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護において障がいの概念とICFを理解しておくことの必要性促す。</li> <li>・高齢者との介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1.0	1.0	0	<講義内容> 1. 障害の概念とICF ・ICFに基づく障害のとらえ方 2. 障害者福祉の基本理念 ・障害者福祉の基本原則、障害者総合支援法における基本理念
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.0	1.0	0	<講義内容> 1. 身体障害 2. 知的障害 3. 精神障害 4. その他の心身の機能障害
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1.0	1.0	0	<講義内容> 1. 家族の抱えるストレスの理解 2. 家族への支援 ・レスパイトケア
(合計時間数)	3.0	3.0	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 221

商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみ生活援助技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。</li> <li>・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。</li> <li>・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の援助」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。</li> <li>・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	3.0	3.0	0	<講義内容> 1. 法的根拠に基づく介護 2. 理論に基づく介護 ・ I C F の視点に基づく生活支援
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4.5	4.5	0	<講義内容> 1. 学習と記憶の基礎知識 2. 感情と意欲の基礎知識 3. 自己概念と生きがい ・ 高齢者のための国連原則 4. 適応行動とその阻害要因
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4.5	4.5	0	<講義内容> 1. 人体各部の名称と動きに関する基礎知識 2. 骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 3. 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 4. 自律神経と内部器官に関する基礎知識 5. こころとからだを一体的に捉える 6. 利用者の心身の違いに気づく視点 ・ 健康チェックとバイタルサイン、緊急時と終末期の対応
④ 生活と家事	4.5	4.5	0	<講義・演習内容> 1. 家事と生活の理解 ・ 生活の枠組みと社会、家庭における家事 2. 家事援助に関する基礎的知識と生活支援について

				・介護保険制度における家事援助、家事援助の基礎知識・技術
⑤ 快適な居住環境整備と介護	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 快適な居住環境に関する基礎知識 ・ 基本的な生活行動と生活空間、快適な環境の維持と安全 2. 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・ バリアフリーとユニバーサルデザイン ・ 福祉用具に関する留意点と支援方法
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 整容に関する基礎知識 2. 整容の支援技術 ・ 洗顔・整髪等の支援技術の実際 ・ 安楽で心地よい衣服の着脱介助の実際
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 移動・移乗に関する基礎知識 2. さまざまな移動・移乗に関する用具（杖、歩行器、車いす等）とその活用方法 3. 移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・ 歩行介助、移動・移乗介助の支援方法の実際 4. 移動と社会参加の留意点と支援方法 ・ 外出介助のためのアセスメント
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 食事に関する基礎知識 ・ 食事の支援に対する介護職の意識 2. からだのしくみと食事形態 ・ 摂食・嚥下のメカニズムと嚥下障害 3. 福祉用具や食器の活用方法 4. 食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・ 食事介護の留意点と支援方法 5. 口腔ケア ・ 口腔ケアの方法と留意点
⑨ 入浴と清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ・ 入浴の作用とリスク 2. 入浴用品と整容用具の活用方法 ・ 福祉用具を活用した入浴の介助 3. ところとからだの要因の理解と支援方法 ・ 安全で心地よい入浴介助の基本的な留意点、身体の清潔介護（清拭、足浴、手浴等）

⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 排泄に関する基礎知識 2. 排泄環境整備と排泄用具の活用方法 3. 排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・排泄のアセスメント、排泄介助の留意点、安全で快適な排泄介助の実際（トイレ、ポータブル、おむつ等）
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	0	<講義・演習内容> 1. 睡眠に関する基礎知識 2. 睡眠環境と用具の活用方法 ・安眠ケアの基本的留意点、安眠への支援の実際 3. 睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・不眠とその兆候、ところとからだのしくみからみた安眠のための介護の工夫
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・終末期のとらえ方、終末期介護の条件と介護職の役割 2. 生から死への過程 ・終末期の身体的変化、死後の身体的変化 3. 「死」に向き合うところの理解 ・精神的側面に対するケア 4. 苦痛の少ない死への支援について ・終末期の各段階とケア、家族への支援
⑬ 介護過程の基礎的理解	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 介護過程の目的、意義、展開 2. 介護過程とチームアプローチ
⑭ 総合生活支援技術演習	6.0	6.0	0	<講義・演習内容> 1. 事例から生活支援の方法を検討する ・生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例1.5時間程度で上記のサイクルを実施する）
(合計時間数)	75.0	75.0	0	

使用する機器・備品等	ベッド・車いす・ポータブルトイレ・簡易浴槽など
------------	-------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 221  
商号又は名称： 学校法人 羽衣学園

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅、施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。</li> <li>・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。</li> <li>・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。</li> <li>・最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3.0	3.0	0	<実習・見学内容> ・介護職の仕事内容や働く現場の見学を通して、研修で学んだことについて再確認を行う。
② 就業への備えと研修終了後における事例	1.5	1.5	0	<講義内容> ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT, OJT)を紹介
(合計時間数)	4.5	4.5	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。